

2024年 濱口梧陵国際賞 (国土交通大臣賞) 受賞式



一般財団法人 沿岸技術研究センター
研究主幹 井山 繁

濱口梧陵国際賞は、2015年の国連総会において「世界津波の日」が制定されたことを受け、2016年に津波防災をはじめとする沿岸防災技術分野で顕著な功績を挙げた方を表彰するため創設されたものです。

2024年の受賞者への表彰式および講演会は、10月30日、海運クラブにおいて開催されました。

授賞式では、斉藤国土交通大臣より高山知司博士（京都大学名誉教授）と海外受賞者であるVallam Sundar博士（インド工科大学マドラス校名誉教授）、The MAKEWAVES Tsunami Collaboration（英国）（代表 Tiziana Rossetto教授）に表彰楯が授与されました。また、濱口道雄ヤマサ醤油株式会社 代表取締役会長から作文コンテスト優秀賞受賞者Punyakeerthy Ram Mohanさん（インド）に優秀賞盾が授与されました。



受賞者の概要

・高山 知司博士 京都大学名誉教授

高山博士は、我が国の防波堤等の技術基準に「不規則波」を世界に先駆けて取込むほか、「高山法」と呼ばれる防波堤背後域における波浪の静穏度解析手法を確立し広く普及させるなど、沿岸波浪研究を通じて沿岸域開発に大きく貢献してきました。またメキシコやトルコの港湾水理研究センター設立における水理実験施設の設置や人材育成を通じた、海外での技術協力にも尽力されました。1995年からは京都大学防災研究所の教授として留学生指導にあたるほか、土木学会海洋開発委員会の委員長を務め、海外技術者の育成に尽力されました。さらに、インド洋津波（2004年）、ハリケーン・カトリーナ（2005年）をはじめとする国内外の津波・高潮の被災地域の現地踏査を指導されました。また津波



防災に関する啓蒙書の出版を通じて防災教育にも貢献されました。

・Vallam Sundar博士 インド工科大学マドラス校 名誉教授

バルム・スンダー博士は、水理、海洋、沿岸工学の分野で40年以上にわたり教育および研究に従事し、600編を超える研究論文と6編の書籍を執筆、さらに防波堤や護岸の耐波性能や波浪抑止効果の向上に資する、インド国内外で300を超える現地プロジェクトに貢献してきました。12の国際研究プロジェクトや32人の博士号取得者を指導し、ドイツのWuppertal大学から名誉博士号を授与されておられます。また、国際水環境研究協会（IAHR）のアジア太平洋部門の会長を務めるほか、公共メディアプラットフォームでの沿岸工学に関する講義を行うなど、国際的な研究コミュニティから注目される会議を主導してこられました。特に2004年のインド洋津波後に大規模な現地調査を実施する上で重要な役割を果たし、提案した被害軽減策を通じて震災復興に貢献されました。



・The MAKEWAVES Tsunami Collaboration

The MAKEWAVES Tsunami Collaborationは、異なる分野を専門とする大学や研究機関の技術者、科学者、実務者により構成される連携組織として、20年以上にわたり学際的かつ多角的なアプローチによる、津波に対する沿岸構造物等の設計と評価のための科学的知見と実用的な対応策の開発に貢献してきました。研究成果は、米国の建築基準への反映や災害保険におけるリスク評価など様々な分野で採用されているほか、2011年の東日本大震災以降は東北大学とも連携するなど、防災専門家の人材育成においても大きな貢献をしてこられました。本研究組織は、University College LondonのTiziana Rossetto教授が代表を務め、その他にHR Wallingford、ロンドン・サウスバンク大学、アラップ社、フェデリコ2世ナポリ大学、デルフト工科大学、プリマス大学、サウサンプトン大学、アテネ国立工科大学、ポルト大学の関係者により構成されています。

